COP30 フォレスト・パビリオン結果概要

１．フォレスト・パビリオン概要

・ 国連森林フォーラム（UNFF）が、前回 COP29 に引き続き、気候変動交渉における森林への関心を高めるため、多国間・組織の協力のもと設置したパビリオン。多様な主体が気候変動対策と持続可能性における森林の貢献を議論する場として、期間中に複数のイベントを開催。

・ 我が国は当パビリオン開設の準備会合から議論に参画し、グランド・オープニング、森林ベースのバイオエコノミー・デイ、温帯・亜寒帯林地域・デイ等、複数のイベントに参画。

２．グランド・オープニング・イベント（11 月 15 日）

・ パビリオンの開設を祝うハイレベル・スピーチに谷村林野庁次長が登壇し、気候変動に対する我が国の持続可能な森林経営と木材利用の取組を紹介するとともに、森林の政治的優先度を高める上で同パビリオンが果たす役割の重要性に言及。

・ マリナ・シルバ伯環境気候変動大臣、カマリアナキス駐伯カナダ大使、デービス英国自然特別代表、バタチャルジーFSC 事務局長、パンボ・ガボン大使兼コンゴ盆地森林パートナーシップ（CBFP）共同ファシリテーター、シェーオー国際建設・林業働組合連合会長、ウーCPF 議長兼 FAO 森林部長（バーチャル）が参加。

（谷村次長によるハイレベル・スピーチ）

（英国自然特別代表、駐伯カナダ大使と談笑）

３．森林バイオエコノミー・デイ関連イベント（11 月 10 日／11 月 13 日）

➢ 「森林ベースのバイオエコノミー・アプローチの繁栄に向けた共創」（11 月 10 日）

・ FAO と FSC が共催した本イベントにおいて、川島分析官から我が国のバイオエコノミー推進の取組みや FCLP が主導した「持続可能な木材によるグリーン建築」宣言、「責任ある木造建築の原則」に対する日本政府承認等を紹介。イベントのモデレーターは FAO、他の登壇者は、ブラジル、オーストリア、FSC、CIFOR。

・ 本イベントを通じ、気候変動対策、生物多様性、地域の well-being を支える森林ベースのバイオエコノミーを拡大するためには、包括的な協働とイノベーションが不可欠であることを確認。

➢ 「森林のための建築：気候変動への強靭性と生計のための持続可能な木造建築の実施」（「持続可能な世界のための持続可能な木材利用（SW4SW）」関連）（11 月 13 日*）

・ PEFC と FAO が共催した討論会(fish bowl)において、川島分析官から我が国が推進する、非住宅分野での木材利用の推進や「都市の第２の森林」づくりによる気候変動対応への貢献について紹介し、各国間の知見の共有の重要性に言及。
・ 本討論会を通じ、責任ある木造建築と持続可能な林業や低炭素排出の都市開発との結びつきや、持続可能な木材利用が都市部の人々の生計向上と気候変動対応の強靭性の向上につながることを確認。

*当初、11 月 10 日開催予定であったものが 13 日開催に変更。

４．**温帯・亜寒帯林地域・デイ関連イベント**（11 月 14 日）

➢ 「各国間の協力強化による、温帯・亜寒帯林の持続可能な経営の推進」

・ 日本が企画し、モントリオールプロセス（MP）メンバー国のカナダ、中国と共催した本イベントにおいて、谷村次長が開会挨拶を述べ、川島分析官が、我が国の森林資源調査の概要及び MP 基準と指標の適用について紹介。カナダ、中国より各国における森林資源調査の取組と課題が共有。
・ 本イベントを通じ、MP の共通の基準・指標、報告ツールが各国の森林資源管理の透明性と比較可能性を確保し、メンバー国による協働が温帯・亜寒帯林の経営の改善に貢献していることを強調。

➢ 「気候変動下における世代間協働による温帯・亜寒帯林の持続的保全」

・ 国際森林学生連盟(IFSA) が主催する本イベントにおいて、川島分析官が森林に対する社会からの期待の変化を踏まえ、異なる世代間の視点の共有と協働の重要性を指摘。
・ 本イベントを通じ、気候変動に対応する森林政策に不可欠な要素として、若者のリーダーシップ、能力構築、知識交流世代間協働が重要であり、共有された学びとリーダーシップにより森林の長期的なレジリエンスが強化されることを確認。

（川島分析官がサイドイベント及び討論会において日本の取組を紹介）

５．**今後の予定**

UNFF は、本会合での成果を 2026 年 5 月に開催される第 21 回国連森林フォーラム(UNFF21)や、同年に開催される FAO 関連会議などで発信し、2030 年をターゲット年とする世界森林目標の達成と関連する国際目標の達成における森林の役割を強調し、関係者間の連携を加速化させることとしている。

（以上）